

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：11601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16783

研究課題名(和文)1920-30年代日本女性詩人による英語詩の文学研究 畠山千代子を事例として

研究課題名(英文)A Study of English Poetry by Japanese Women Poets in the 1920s and 1930s: The Case of Hatakeyama Chiyoko

研究代表者

高橋 由貴 (Takahashi, Yuki)

福島大学・人間発達文化学類・准教授

研究者番号：90625005

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1920-30年代に英語で詩作を行った畠山千代子の残した遺稿資料の保全・調査とデータベース化を行った上で、その整理と分析を行った。特に、W・エンプソン(William Empson)からの詩の添削箇所と詩の改稿過程について翻刻・読解及び日本語詩の草稿ノートに書きつけられた詩の改稿についての翻刻・読解に力を入れて進めた。この調査によって、エンプソンによる英語詩への関与と畠山千代子の英語詩断念の経緯、千代子の英語詩及び日本語詩の特質と意義を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の詩壇からも英国からも遠く離れた東北の片隅で書かれた、英詩という規格から外れる千代子の英語詩を、日本文学や比較文学研究の分野からアプローチすることで、母語から出て書く文学例として再評価をおこなった。

また、既に著名になっていた英詩人が、親しくない日本人女性に、懇切丁寧に英詩の添削・指導をするという世界的にも珍しい事例であることに着目し、エンプソンの添削・指導という詩の形成過程(書き換え、生成論的面白さ)そのものに着目する研究を行い、健全/隻手 英国/東京/東北 男性/女性 英語話者/非英語話者と常に劣位におかれる千代子とその詩の問題詩を考察した。

研究成果の概要(英文)：In this research, after preserving, examining, and compiling them into a database, I organized and analyzed the literary remains of Chiyoko Hatakeyama, who composed English poetry during the 1920s and 1930s. Especially, I made an effort to typeset and decipher William Empson's corrections and Hatakeyama's revision of the poetry. My work clarified Empson's participation in her English poetry, the process of how she abandoned it, and the significance of her English and Japanese poetry.

研究分野：日本文学

キーワード：日本人の英語詩 女性詩人 William Empson 地上楽園

1. 研究開始当初の背景

イギリス詩人ウィリアム・エンブソンの詩集中の「C・Hatakeyama」という署名は、長い間、英文学詩史の謎であった。しかし、2003年に、東北大学英文学研究室のピーター・ロビンソン氏と齋藤智香子氏によって宮城県登米市中田町の畠山千代子なる無名の隻手の女性であることが解明された。この発見は、同年7月18日号『Times Literary Supplement』表紙を飾るイギリスと日本双方での大きな文学的ニュースとなった。しかしながら、東北大学英文学研究室の調査は、署名と実在の人物との照合だけにとどまり、その後の本格的な調査と詩の検討は、諸般の事情によって久しく頓挫している。調査の中断・放棄に、資料を保管する畠山千代子の遺族である甥夫婦が高齢になっていることも加わり、資料は再び放置されたままである。畠山千代子関連資料の一刻の猶予もならない保全・管理と調査が待たれている。本研究は、このThe Secret Muse 畠山千代子の関連資料およそ2000点の散逸・劣化を防ぎ、中断されていた未発掘資料(手稿・書簡・写真・掲載詩誌等)を整理・保存し、目録化を行って公開する。これらの基礎作業を基に、英文学史・日本近代詩史上での彼女の英語詩と郷土詩の評価と意味付けを行う。

2. 研究の目的

本研究の目的は、次の～である。

明治～大正期において日本の女性が地方で英語詩を書くという特異なケースの資料的裏づけ

畠山千代子の営為は、宮城および弘前を中心とする地方文学とくに東北地方の詩の運動を明らかにするものとして注目を集めており、その目録化は詩の中央/地方、男性詩人/女性詩人といった運動史を捉える際の一つの成果として大いに期待できるものとなる。また白鳥省吾(宮城県栗原出身)主宰『地上楽園』との関わりを調査分析することで、「女性」「郷土」のレッテルを貼られる彼女の詩作の困難さも同時に浮かび上がらせる。

宮城を中心とする地方文学資料と宮城女学校教育資料のあらたな発見・発掘

資料保全という緊急を有する研究的使命だけでなく、これらの資料内容は地方の女性教育の豊かさを広めるものとなる。宮城女学校の宣教師による教育の具体的内実を公にし、宮城女学校の文学教育の先駆性を明らかにする。

日本における女性詩人の伝記的調査と、日本における東北地方での女性による英語詩形成過程の解明とその日本近代詩史における位置づけの確定

上記3点、エンブソンとの具体的な交渉過程、女学校の先進的教育の具体的な内容とその豊かさ、『地上楽園』を中心とする東北文学の試みと再評価が期待される。昨今の地方文学事典の相次ぐ出版といった地方文学見直しという観点からも、隆盛をみせる翻訳研究やアダプテーションという観点からも、畠山千代子という存在と、彼女をとりまく環境や文学者たちとの具体的な交渉の調査は、英文学史、日本文学史双方に関わる歴史的資料となるはずである。資料保全と整理・目録化を主眼とする本研究は、英文学だけでなく、日本文学と(翻訳学を含む)比較文学の双方において基礎となる伝記研究および書誌学的研究であり、かつ日本近代詩における中央/地方、日本/世界の重層性、さらに日本近代詩におけるジェンダーや障碍の問題を捉え直す画期的な事例研究の成果である。

3. 研究の方法

以下(1)～(4)の調査を行った。

(1) 畠山千代子の手稿・書簡等の基礎資料調査

急務の作業は、貴重資料の散逸防止と劣化著しいものの保存である。資料1点ずつにナンバリングを施し、写真撮影をしてアーカイブ化を行った。手稿・書簡・日記を形態に則って目録化した上で、さらにエンブソン関係、宮城女学校関係、『地上楽園』関係の3つの研究テーマごとに整理し、この3テーマに則って以下(2)～(4)の観点から本来あるべき彼女の詩の評価を行う。

(2) 宮城女学校の英文学教育の実態調査

宣教師と畠山千代子の日記・手紙、宣教師たちの著作を検討することで、当時の宮城女学院の英文学教育の様相を明らかにする。

(3) 畠山千代子詩へのエンブソン関与調査

齋藤智香子氏によって、手紙による詩の添削の一旦は解明されたが、さらにどれくらいどの程度のエンブソンによる添削が行われたのかをさらに追究する。またエンブソン名義で発表された詩と畠山千代子の手稿を比較検討し、エンブソンの改作のポイントも明らかにする。

(4) 『地上樂園』を中心とした郷土詩調査

英語詩を日本語に直した詩が掲載された詩誌『地上樂園』の調査分析を中心として当時の東北-宮城県における郷土詩の問題を探る。

4. 研究成果

畠山千代子の先行研究は以下のとおり。

- ・ Peter Robinson (元東北大学英文学研究室・現京都大学)
 - a. 2003 Very Shrinking Behavior: William Empson's Poetic Collaboration with Chiyoko Hatakeyama, TLS, July18: 13-15
 - b. 2004 C. Hatakeyama [Trans. W.E.], PN Review Vol.31 November-December: 55-60
 - c. 2004 Chiyoko Hatakeyama's Correspondence with William Empson, 『信・望・愛: 宮城学院資料室年報』: 67-92
- ・ John Haffenden (シェフィールド大学教授)
 - a. 2005 William Empson Vol.1 Among the Mandarins, Oxford university Press: 331-345
 - b. 2006 Selected letters of William Empson, Oxford University Press: 73-83
- ・ 齋藤智香子 (元東北大学英文学研究室助教)
 - a. 2003 「ウィリアム・エンブソンと畠山千代子 大いなる鷹の飛翔を見守った小鳥」 『英語青年』 149(7): 404-408
 - b. 2005 畠山千代子著 『隻手への挽歌』、新風舎 (畠山菜穂子氏との共編著)

これら英文学分野からの先行研究を踏まえた上で、本研究は、英詩という規格から外れる非ネイティブである畠山千代子の英語詩の面白さを日本文学・比較文学の観点から捉え直しを行った。日本の詩壇からも英国からも遠く離れた東北の片隅で書かれた英語詩の再検討、比較文学研究・翻訳研究から母語から出て書く英語詩の再評価ができた。また、添削・指導という詩の形成過程(書き換え、生成論的面白さ)を追究する基礎的な作業を完了した。既に著名になっていた英詩人が、親しくない日本人女性に、懇切丁寧に英詩の添削・指導をするという世界的にも珍しい事例であることは間違いない。幾重にも中心や中央から遠ざけられる千代子とその詩の問題がある。健常/隻手、英国/東京/東北、男性/女性、英語話者/非英語話者など、詩を評価する際に関わる非対称性の問題を改めて考えなければならない。エンブソンと千代子の関係を、女性宣教師たちと千代子、『地上樂園』同人と千代子といった複合的な関係性の中で捉え返して行くことができた。千代子の年譜、資料のデータベース、J・Haffenden氏の伝記・書簡集未収録の手紙や添削部分、Robinson氏が翻刻していない英語詩や草稿ノートの翻刻については今後論文や研究ノートとして発表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高橋由貴
2. 発表標題 "The Secret Muse" 畠山千代子の資料調査報告
3. 学会等名 2017年度福島大学国語教育文化学会前期学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋由貴
2. 発表標題 畠山千代子の英語詩とウィリアム・エンブソンの指導 草稿と書簡資料の調査から
3. 学会等名 2019年度日本比較文学会 第81回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋由貴
2. 発表標題 畠山千代子の英語詩創作のプロセス
3. 学会等名 日本比較文学会2019年度東北大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----